

人は怖いと知らせることが大事 北秋田市阿仁打当マタギ頭領 鈴木英雄氏

2024年10月7日 2:00 [会員限定記事]

保存



秋田県北秋田市阿仁の打当（うっとう）地区で、代々マタギの家系に生まれた。山形県や長野県などにマタギを伝えた阿仁は「本家」と呼ばれる。ハンターと違い、私たちは伝統を守って山の神様を信仰し、山の恵みを頂いて生活する。クマは最高の授かり物で、魂を山の神に返す儀式をしてから解体する。内臓や血、骨も薬などとして大切に使ってきた。



猟を始めたのは15歳で、60年以上がたつ。2023年はクマが街中に出てきて大変な騒ぎで、こんなことは初めてだった。クマの生態が変わったのかなと思う。エサがなくても奥山にいる個体と、里山周辺に来てエサを食べて子供を産む個体がいるのではないかと。

山ではクマと対等の立場で命懸けの駆け引きをしている。わなにかかったクマを駆除しても、喜びはほとんどない。去年はクマもエサがなく、かわいそうな1年だった。

山に入って大声を出したり、銃の音を聞かせたりして人間は怖い存在と知らせることが大事だ。昔は山がもっと明るかった。今は自分が所有する山を知らないケースもあり、山に入る人が少なくなって暗くなった。山が押しつけて、集落は狭くなっている気がする。

この集落のマタギは大半が高齢者で、人数もたった5人になった。ただ、関心を持って移住してくる若者も現れた。息子は集落を出て暮らしているが、孫娘がマタギをやりたいと言ってくれている。本気かどうかわからないが我々にとってはうれしいことだ。

すべての記事が読み放題
まずは無料体験（初回1カ月）

有料会員に登録する

有料会員限定

キーワード登録であなたの
**重要なニュースを
ハイライト**



日経電子版 紙面ビューアー

詳しく見る

保存



こちらもおすすめ(自動検索)

静岡県内でクマ目撃急増、24年度は前年の3倍ペース

9月18日